

特定非営利活動法人日本火山学会
2025 年度臨時総会 議事録

開催日時及び開催場所

2025 年 10 月 2 日（木） 11 時 30 分～12 時 15 分

長野県松本市 キッセイ文化ホール 中ホール（Zoom による中継も実施）

初めに出席数を確認した。定款第 26 条の規定により総会の開会は維持会員の 1/3 以上の出席をもって成立するが、臨時総会開催時の維持会員は 287 名であり、定足数は 96 名となる。会場出席者 51 名、ウェブサイトのフォームへの記入による委任状提出者及び表決権行使者 61 名の計 112 名について、会長が出席者と認定し、定足数を満たしていることを確認した。これを受けて、総会の議長である会長が開会を宣言した。

議題 1 定款第 48 条の変更

理事会から提示された定款第 48 条の変更案（別添資料 1）について全会一致で承認した。

議題 2 議事録署名人の選出

議事録署名人として青山裕副会長・下司信夫副会長を選任した。

報告事項

各委員会から、活動報告等を行った（別添資料 2）。

以上、予定した審議事項を全て審議し議決したことを確認し、会長が閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2025 年 10 月 16 日

議長 中村美千彦

議事録署名人 青山裕 下司信夫

資料1

○ 定款第 48 条の変更について

予算の追加及び更正に関する事項を定めた定款第 48 条を以下のように変更することを提案する。

旧（現行）

（予算の追加及び更正）

第 48 条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て既定予算の追加又は更正をすることができる。

新（変更案）

（予算の追加及び更正）

第 48 条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て既定予算の追加又は更正をすることができる。

変更の背景：

現在の定款第 48 条は、火山学会の NPO 法人化の際に制定された定款（2003 年 3 月 26 日認証）から変更されていないものであるが、この定款制定当時は、NPO 法第 27 条第一項第一号の「収入及び支出は、予算に基づいて行うこと」に基づく予算準拠の原則があり、NPO 法人定款の例にも定款第 48 条と同じ条項が示されていた。

一方、2003 年 5 月 1 日の改正 NPO 法施行以降は、「注：平成 15 年の法改正により、「予算準拠の原則」は削除されている（法 27 一）。現行法上、予算管理を行うか否かは法人の任意であることから、予算管理を行わない場合又は内規等で予算管理を行う場合は、記載を要しない。」の注記が同じ例にも付されている。

火山学会では、総会が年 2 回のみの開催であるため、これまでは予算変更を避けるべく、予算案を余裕をもって作成したうえで適切な経費執行を行ってきたが、余裕をもたせた予算案が実際の財務状況を分かりにくくしている一因にもなっていた。

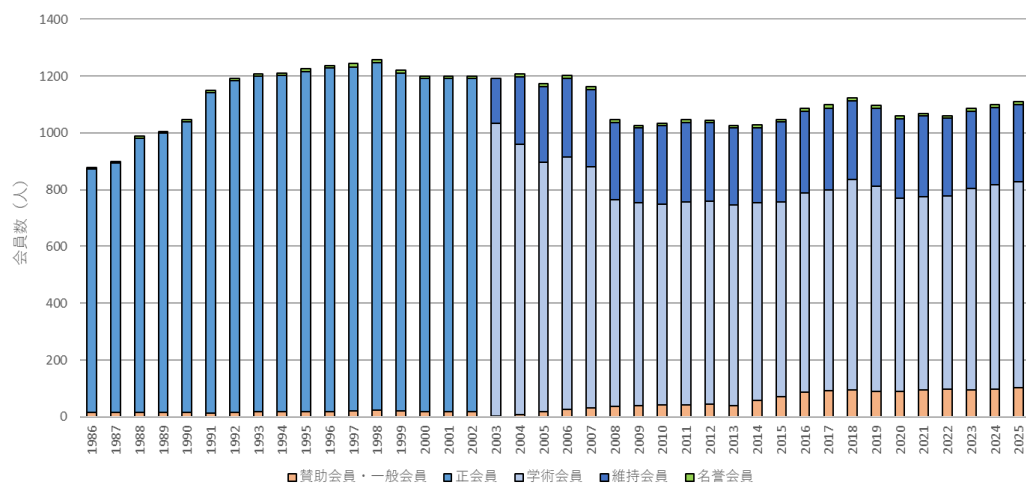
財務管理と学会運営を柔軟に行うために、予算変更を総会承認事項から理事会承認事項に変更することが望ましいと考える。

資料2

○ 庶務委員会からの報告

・ 会員数動向（2025 年 9 月 26 日時点）

	維持会員	学術会員	一般会員	計
2024 年度通常総会時（個人）・合計	267	667	95	1,029
2024 年度通常総会時（団体）・合計	2	0	21	23
名誉会員	10	0	0	10
2025 年度通常総会時・合計	279	667	116	1,062
2025 年度・除名（個人）	-1	-5	-2	-8
2025 年度・入会・承認済（個人）	7	58	12	78
2025 年度・入会（団体）	1	0	0	1
2025 年度・会員種別変更（個人）	1	-1/1	-1	-1
2024 年度・退会（個人）	0	0	-1	-1
2025 年度・学生会員継続手続き	0	5	0	5
逝 去	0	-1	0	-1
2025 年度通臨時会時（個人）・合計 （一般／学生）	274 (269/5)	724 (602/122)	103 (93/10)	1,101 (964/137)
2025 年度臨時総会時（団体）・合計	3	0	21	24
名誉会員	10	0	0	10
2025 年度臨時総会時・合計	287	724	124	1,135



- ・ SMOOSY の利活用状況など
 - － 2025 年 3 月から SMOOSY の運用を開始。
 - － 2025 年 8 月より会費等の納付状況の確認および会費等のクレジットカード決済を運用開始。
 - － 個人会員には、秋季大会参加費・懇親会費について SMOOSY での請求・支払いを依頼。
- ・ 理事選挙について
 - － 次期の理事の選挙を 2025 年末～2026 年初めに実施予定。
 - － SMOOSY と連携したオンライン匿名選挙システム (i-Vote) を利用予定。

○ 大会委員会からの報告

- ・ 2025 年度秋季大会について

事前参加登録者は計 454 名（昨年度は 494 名）。

会員：248 名、学生会員：100 名、シニア会員：19 名、
学部生（会員・非会員含む）：47 名、その他：40 名。
- ・ 来年度（2026 年度）の秋季大会について
 - ・ 学術講演会の会期：9 月 24 日（木）～9 月 26 日（土）
 - ・ 会場：山形大学（山形県山形市）
 - ・ 以下のように準備調整中：
 - － 交流会：9 月 25 日（水）
 - － 現地討論会（蔵王山方面を予定）：9 月 23 日（水）
 - － 一般講演会・親子実験：9 月 27 日（日）
 - ・ 日本鉱物科学会（9 月 24 日～26 日、会場：東京大学）とのオンライン共催セッションを実施予定。セッション名：「火成作用のダイナミクス（仮）」
 - ・ 来年度秋以降、秋季大会への投稿料の導入を検討中。また、confit を用いた運営の効率化を進めることも検討中。

投稿料導入に関する会員の意見についてアンケート調査を行う予定。

○ 編集委員会からの報告

- ・ 「火山」の発刊状況・査読編集状況

発刊状況：【70 巻 3 号】 2025 年 9 月末発行

掲載内容（予定）論説：2 編

査読編集状況

現在査読編集集中の通常論文原稿：計 4 編（論説 3 編、寄書 1 編）

現在査読編集集中の 70 周年記念特集号・論文原稿：総説 10 編

- ・特集：次世代研究者のための火山学講座（66巻3号～69巻4号）合本について
19編の特集記事をまとめ、すぐに読みやすいように冊子体に。
2025年5月に102冊販売（一般48冊・学生54冊）。2025年10月に50冊増刷し、
秋季大会学会ブースで販売中。

○ 将来計画委員会からの報告

- ・70周年記念事業ワーキンググループの活動について
ワーキンググループでは、学会と社会の関わりの現状・今後を考える一環として社会との関わりが深い常設委員会（学校教育、ジオパーク支援、火山防災、順不同）に過去10年の委員会活動についてのヒアリング・意見交換を実施。秋季大会ではその報告会を実施予定（10月3日昼休み（13:30～14:00）、B会場で現地開催のみ）。

○ 事業委員会からの報告

- ・「みんなの火山セミナー」について
ジオパークのガイド～専門員レベルの方々が、火山に関する基礎的な事項を学べる機会を提供するために、オンラインセミナーを開催。
第1回6月8日（日）、第2回：8月10日（日）ともに、講師は中村美千彦会長。ファシリテータは大野希一・荒木藍の両会員が務め、それぞれ283件、199件の参加登録。
Zoomによる配信（参加費無料、投げ銭も設定）。

- ・秋季大会時のジオツアーについて

浅間北麓ジオパークが火山学会会員を対象として10月4日（土）にジオツアーを実施予定。

○ 国際委員会からの報告

- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2026について
 - － JpGU-AGU Joint Meeting 2026における英語セッションの比率向上（目標7割）と充実等、国際化に向けたワーキンググループを2024年度第7回理事会（12月23日開催）で設置。これまでに3回の会合を開催し、JpGU公式のセッション提案に先立つ準備を行った。
 - － 2024, 2025年のJpGUセッションコンビーナを対象に提案予定のアンケート調査を実施（5月21日～6月18日）。火山学会全会員に向けても同様のアンケート調査を実施（6月25日～7月21日）。JpGU-AGU 2026に英語セッション提案予定のアンケート記載者にセッション提案を呼びかけ（8月22日）。

中道理事（国際委員会）から、会員からの積極的な英語セッション提案を期待する旨の発言。セッション提案締切は10月15日17時。

- ・若手向け英語セッションレクチャーの開催について

英語セッション提案の障壁となっている可能性のある英語での企画・運営等についての知見共有のために、3回のレクチャーを実施。学会員には学会 ML【火山学会:2198】で周知。

- (1) 9月26日 英語による研究発表の仕方や質疑応答に関する基礎知識（講師：ブリティッシュカウンシル）
- (2) 10月1日昼休み（秋季大会 B 会場） 英語による座長や質疑応答・議論に関する実践的知識（講師：長谷川健、Conway Chris、松本恵子、姫松裕志）
- (3) 10月1日ポスターコアタイム終了後（大会 B 会場） 模擬フラッシュトークセッションによる発表・座長・質疑応答のグループ学習（講師：ブリティッシュカウンシル、長谷川健、Conway Chris、松本恵子、姫松裕志、Farquharson Jamie）

- ・IAVCEI との連携について

- － 火山学会と IAVCEI は、情報発信と交流促進を目的とした MoU を 2024 年 4 月 10 日付で締結。下司副会長が IAVCEI の Executive Committee member (2023 年～2027 年)。
- － IAVCEI EC から、IUGG General Assembly 2027 (7 月 16 日～22 日、韓国インチョン) への日本からのセッション提案・関連した WS の開催などに関する依頼および Bulletin of Volcanology への投稿増の依頼。

- 学校教育委員会からの報告

- ・地震火山地質こどもサマースクールについて

2025 年度は、御嶽山周辺（長野県側）において火山学会が主担当となり 8 月 5 日・6 日に実施。

「御嶽山はなぜ大きいのか？」をテーマにフィールドワーク、実験などを通してグループごとに謎に迫った。多くの火山学会員が講師やスタッフとして参加した。参加者は小学生から高校生までの 37 名。

- 火山防災委員会からの報告

- ・「2025 年火山防災シンポジウム」について

「火山防災委員会の十年と防災・人材育成活動の今後」をテーマに 5 月 24 日にハイブリッドで開催。

- ・防災学術連携体総会および防災こくたいへの参加について

- ・今後の活動予定について

内閣府主催の火山防災協議会等連絡・連携会議および火山専門家等の連携会議が 2025 年 11 月に開催予定。

そのほか、JpGU2026 のセッション提案、防災学術連携体の参加者対象のウェブ研究会などを計画。

○ そのほか理事会での議論・報告事項の紹介

- ・ EPS 誌の運営・負担金などに関する報告（他学会関連担当委員会）
- ・ 学会ホームページの更新方向性について（広報委員会）
- ・ 学会ホームページへのバナー広告掲載について（事業委員会）
- ・ 学術会議 IUGG 分科会関連の報告（国際委員会）